

経営目標	経営目標の重点	具体的な取組	ア									ン									ケ									ー									ト								
			教職員の評価項目			R4	R5	R6	保護者の評価項目			R4	R5	R6	生徒の評価項目			R4	R5	R6	保護者の評価項目			R4	R5	R6	生徒の評価項目			R4	R5	R6															
1. 確かな学力の育成と生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。	②特別支援教育の充実	・教育的ニーズの把握と適切な支援の推進	・学校として、特別な支援が必要な生徒の実態を把握しきめ細かな支援を行っている。	A	A	A	・学校は生徒一人一人の困り感を把握してそれを解消するための手だてを講じている。	A	A	A	・お互いのもち味を認め、それぞれに学び方があることを理解し、尊重している。	A	A	A																																	
		・理解教育の推進	・障がいの特性について理解し、指導や支援に活かしている。	B	A	A	・学校は一人一人を大切に、様々な価値観に触れる授業を行っている。	(C)	A	A	・朝・終礼や授業などで、人はそれぞれ違いがあることを学ぶ場面がある。	A	B	A																																	
	④確かな学力の育成	・主体的な学びを育てる授業づくりに向けた授業改善の推進	・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善に取り組んでいる。	・学校は追究したくなる課題や粘り強く取り組む必要のある宿題を出し、生徒の学力育成に取り組んでいる。	A	A	A	・学校は生徒一人一人の理解度（学習内容の定着度）を把握しながら授業を進めている。	A	A	A	・授業では目標（めあて・ねらい）が示されている。	A	A	A																																
			・思考力・判断力・表現力を生かし、提案力を身に付けた生徒の育成に取り組んでいる。	・生徒の実態に応じた課題の設定や支援をととして生徒の学ぶ意欲を高めている。	B	A	A	・学校は生徒一人一人の理解度（学習内容の定着度）を把握しながら授業を進めている。	A	A	A	・生徒同士で話し合う活動をととして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	A	B	A																																
		・基礎的な学力の定着と学習習慣の確立	・生徒の実態に応じた課題の設定や支援をととして生徒の学ぶ意欲を高めている。	B	A	A	・お子様は家庭での学習習慣が身に付いている。	C	B	B	・授業では学習したことを振り返る活動を行っている。	A	B	B																																	
		・学校図書館及びICT機器の活用推進	・学校図書館司書と連携した授業を行っている。 (例：学校図書館での授業、学校図書館司書への選書の依頼等)	C	B	A	・学校は、図書館だよりなどをととして、生徒がたくさん本を読むための手立てをおこなっている。	(C)	A	A	・家庭学習は平均して、平日は1時間以上行っている。	D	C	D																																	
⑥すこやかな身体づくり	・全身持久力の向上を意識した保健体育と部活動	・部活動指導に関わり、生徒のすこやかな身体づくりに貢献している。	・学校は生徒の体力などに配慮しながら部活動に取り組んでいる。	B	B	B	・学校は生徒の体力などに配慮しながら部活動に取り組んでいる。	B	B	A	・部活動に意欲的に参加し、自己鍛錬をめざしている。	A	B	B																																	
		・すこやかウィークを通じた生活習慣の形成	・「すこやかウィーク」の結果を生徒への声かけ（指導・支援）に活かしている。	C	C	C	・お子様は「テレビや電子メディアは1日1時間以内」が達成できるよう、意識して生活している。	(D)	D	C	・「早寝・早起き・朝ごはん」「質のよい学びと眠り」など、望ましい生活習慣を身に付けようとしている。	(C)	B	B																																	
	・「めざせ！志学の子生活習慣」を日常の指導に活かしている。	・「めざせ！志学の子生活習慣」を日常の指導に活かしている。	D	D	D	・お子様は「めざせ！志学の子生活習慣」を家庭で意識して生活している。	(C)	D	C	・午後9時以降はメールやゲームをしないようにしている。	(D)	D	D																																		
2. つながり合い、支え合う、温かい集団づくりの推進を図る。	①人権・同和教育の充実	・人権感覚や人権意識の高揚を図る取組	・「進路保障」の考え方を意識して生徒指導や人権教育に取り組んでいる。	A	A	A	・学校は人権意識を高め、人権を守り、大切に取る取組を行っている。	B	A	A	・人権の大切さについて学習したり、考えたりする機会がある。	A	A	B																																	
		・生徒理解を基本とした生徒指導の充実	・生徒一人一人の背景にも目を向けた生徒指導に取り組んでいる。	A	A	A	・学校は生徒一人一人の特徴やもち味を踏まえた指導を行っている。	A	A	A	・中学校の先生は生徒の話聞いてくれる。	A	A	A																																	
		・自他ともに尊重できる豊かな心の育成	・互いの人格を尊重し、思いやりのある生徒の育成に向けた取組を行っている。	B	A	A	・学校は思いやりをもった生徒の育成に取り組んでいる。	A	A	A	・相手の気持ちを察し、思いやりの心をもって相手を尊重している。	B	A	A																																	
	③道徳教育の充実	・道徳科を要とした道徳性の育成	・「考え、議論する」道徳をはじめ、学校の教育活動全体をととして、生徒のよりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に取り組んでいる。	A	A	A	・学校は教育活動をととして、生徒の道徳性（生命を大切にすることや他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等）を高める働きかけを行っている。	A	A	A	・相手の立場や思いを尊重しながら気持ちや考えを聞き、自分の気持ちや考えを伝えようとしている。	(C)	A	A																																	
⑤-1保・小・中の連携 深化と開かれた学校づくり	・保小中一貫教育研修部会等による取組の充実	・保・小・中・地域が協働して、運動会や文化祭に取り組んでいる。	・保・小・中・地域が協働して、運動会や文化祭に取り組んでいる。	A	A	A	・学校は、保・小・中・地域と協働して運動会や文化祭に取り組んでいる。	A	A	A	・保育園・小学校・地域の人のことなどを考えながら運動会や文化祭などの学校行事や日々の生徒会活動を行っている。	B	A	A																																	
	⑤-2保・小・中の連携 深化と開かれた学校づくり	・地域とともにある学校、地域に支えられた学校をめざした連携の充実	・学校として、家庭や地域に情報を発信するとともに保護者や地域の方の意見を受け止めている。	A	A	A	・中学校の教職員は保護者の話を聴く姿勢がある。	A	A	A	・地域や学校・園・家庭で関わってくださる方に感謝の心をもって毎日を過ごすことができている。	B	A	A																																	
3. 周りの人々や地域社会との関わりを通して、社会を生き抜く「生きる力」の育成を図る。	⑦SST（志学最高[再考・再興]タイムの充実	・探究的で協働的な「総合的な学習の時間」の充実	・担当した生徒の学習活動が探究的になるよう努めている。	B	C	A	・学校では「発見」「地域課題の考察・提案」などにつながるSSTが行われている。	A	A	A	・総合的な学習の時間では設定したテーマに向かって、個人探究活動に取り組むことができている。	A	A	A																																	
		・志学に学び、志学の発展を提案できる力の育成	・総合的な学習の時間の趣旨を意識しながら、生徒の「提案する力」の育成に努めている。	B	A	A	・お子様はSSTで、地域課題の解決に向けた有効な提案を行う準備ができている。	A	A	B	・SSTをととして、地域課題の解決に向けた提案・発表をする準備ができている。	B	D	B																																	
		・地域社会や世界に関わろうとする意欲の涵養	・一人一人の生徒の社会的・職業的自立に向けた取組を行っている。	B	A	A	・学校は、生徒が自らの将来について考える機会を設定している。	A	A	A	・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	B	C	B																																	
	⑧特別活動の充実	・生徒会活動の充実を通じた社会参画意識の高揚	・生徒の願いや意思を尊重した生徒会活動になるよう支援している。	A	B	A	・生徒会の活動には、生徒のアイデアが反映されている。	A	A	A	・生徒会の話し合いでは、生徒会のスローガンに基づいた意見を積極的に発表している。	B	A	A																																	
・感動体験や自己有用感を得られる活動の充実と創造	・行事や体験活動をととして生徒の自己有用感を高めたり、感動できたりする場の設定に心掛けている。	A	A	A	・学校は生徒に感動や自分は貢献できているという実感を味わわせる活動を行っている。	A	A	A	・諸活動や行事をととして感動したり、自分は周りの人に役立っていると感じたりすることができる。	C	B	B																																			
学校関係者評価より	1.確かな学力の育成と生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る 苦手を克服していくことも大切だが、興味を伸ばしていく指導はとてもよいと思う。 すこやかウィークの項目を生徒の生活に少し合わせるよう、項目の見直しが必要ではないか。		2.つながり合い、支え合う、温かい集団作りの推進を図る タブレットを上手に活用している。Aも今後増えていくだろうが、人とのつながりを大切にする教育活動を行ってほしい。						3.周りの人々や地域社会との関わりを通して、社会を生き抜く「生きる力」の育成を図る。 SSTは年々よいものとなっている。自ら探求していくことにつながっており、今後も続けてほしい。特に今年度の内容は地域のみならず、多くの人とのつながりが見え、体験も感じ、とてもよかった。																																						
改善計画	1.確かな学力の育成と生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る ②引き続き、生徒一人一人の見取りを丁寧に行い全教職員で共有するなど、組織的に生徒指導を進める。保護者との連携を密にするとともに、必要に応じて関係機関とも連携する。 ④生徒が自主的に家庭学習に取り組むことが理想ではあるが、ある程度教員が課題や宿題を提示して、まずは基本的な家庭学習の習慣が身につくように工夫していく。そのため、自学ノートの見直しが必要。1時間家庭学習を行った成果を提出するなど。 生徒の学力を向上させるには、教員の授業力向上が必要である。生徒に学ぶ意欲をもたせるような授業づくり、授業の中で家庭学習のやり方の練習を行うなど、授業をベースに生徒が家庭でも学習に取り組もうと思えるようにする。 家庭での生活時程と広島大学田村先生の講演を参考に、家庭での生活や睡眠時間、自主学習や予習・復習時間等の生活スタイルを考える。志学中は、睡眠時間が確保されている生徒が多いので、起きている間の時間マネジメントを考える啓発活動を行う。 ⑥引き続き、担当者だけでなく全校体制で生徒の活動を見守り、肯定的な言葉かけを増やすことで生徒の意欲を喚起していく。また、保護者や教職員の負担とのバランスを見ながら、積極的に校外活動を取り入れる。睡眠教育についてはR7年度も継続して取り組む。		2.つながり合い、支え合う、温かい集団作りの推進を図る ①職員・保護者の評価はAだったが、生徒の評価はBだった。世界人権デー、子どもの人権、男女共生社会について、全校で授業を行ったが、生徒の理解や心に留まっていないと考えられる。授業内容や学習方法について、工夫する必要があると思う。また、日頃の朝終礼等で、機会をとらえて、生徒に話したり、生徒が考えたりするミニ学習を行うのも効果的である。 ⑤どちらの項目も評価はAではある。内容としても特に保護者の「そう思う」という回答割合が増加した。保護者が学校に入りやすく、協力できていることがうかがえる。生徒も同様に昨年度に比べ、活動に意義をもって取り組むことができている。今後はさらに自主性を高めていける活動となるよう、支援していく。						3.周りの人々や地域社会との関わりを通して、社会を生き抜く「生きる力」の育成を図る。 ⑦保護者、生徒ともにBで、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。」の生徒評価もBだった。提案・発表については、その内容において難しさがあるので、今までのSSTの取組を進めていき、探究的な学習の基礎・基本を身につけるよう、学校として何をめざすのかを検討する必要がある。キャリア教育については、各学年の学習内容を精選し、系統立てて進められるよう工夫する必要がある。 ⑧今まで以上に一人ひとりの意見を大切にしながら、納得がいくまで生徒同士で話し合わせることを重点的に行う。また、活動ごとに振り返りを行い、認め合う活動をさらに充実させていく。																																						